

市場への強力な再参入を示す価格、償還期間

IFFIm、1.37億米ドルを調達し、2億5千万人の子供への 予防接種を目指すGAVIの活動を促進



GAVI/Oliver Asselin/2012

IFFImはこの夏、日本の個人投資家向けの売出債市場で2度起債し1.37億米ドルを調達して資本市場への強力な再参入を果たしました。

GAVIアライアンス (以下GAVI) は2011年から2015年の間に400万人の命を救うため、2.43億人の子供に予防接種を行うことを約束しています。IFFImの資金は、GAVIアライアンスとその約束を支援する役割を担っています。設立当初から10年で、GAVIは世界で最も貧しい国々において3.26億人の予防接種を援助し、その結果550万人以上の命が救われました。これまで、IFFImからGAVIへの資金拠出が約28億米ドル承認されています。

ユーロ圏の危機のさなかにおいてもIFFImの資金市場へのアクセスが引き続き維持されていることが、IFFImの市場地位を物語っています。

IFFIm理事長のレネ・カーセンティは次のように述べています。「市場の著しい不透明感の中、IFFImはGAVIの予防接種プログラムのため重要不可欠な資金調達を継続してきました。日本の投資家が、IFFImのワクチン債が子供達への予防接種を推進するために非常に効率的かつ革新的な方法だという点を認識されていることは、高い評価に値します」

日本の個人投資家向け売出債の初回売出しにおいて、期間3年の南アフリカランド建固定利付債券、期間4.5年の豪ドル建固定利付債券、期間15年の南アフリカランド建ディスカウント債券が投資家に提供されました。2度目の売出しにおいては、JPモルガン証券が主幹事を務め、期間5年の豪ドル建て債券が起債されました。IFFImの財務マネージャーは世界銀行が務めています。

日本国内の販売会社9社と提携して初回の起債を実施したHSBC証券の立澤賢一代表取締役社長は次のように述べています。「今回再びIFFImのワクチン債を日本全国の投資家に提供できることとなり、光栄に思っています。今回の起債は日本の投資家の開発途上国の医療や社会環境の改善に貢献したいという意識の高さを示したものとと言えます」

IFFIm債の個人投資家向けの初回起債が、最も影響力のあった取引のベスト25入りを果たす。2ページ参照。

IFFIm、この一年で飛躍的変革の1年遂げる

IFFImの1年を特徴付けた出来事として、新たなドナーからの誓約、ユーロ圏の混乱が続く中、日本の資本市場における堅調な活動の維持、新しい理事長の就任がありました。

強力なドナー支援を特に印象付けたのは、イタリアが15年間で2550万ユーロの追加拠出を約束する新たな誓約を行ったことです。これにより、イタリアが20年間に渡って支払うことを誓約した寄付額が4.99億ユーロ(6.38億米ドル)に達しました。また、20年間で2千万米ドルを拠出する約束により、ブラジルがIFFImの10カ国目のドナーになったことです(現在贈与契約の締結に向けたプロセスが進行中です)。

IFFImの最大のドナー(23年間に渡り16.3億ポンド)であるイギリスは、ブラジルとイタリアの新規誓約に等しい寄付金額の追加を新たに誓約しました。

2012年夏、IFFImはスプリット・レーティング(格付格差)を生じた後初めてアクセスした日本の資本市場で、1.37億米ドル相当の調達に成功しました(1ページ目の関連記事をご覧ください)。IFFImは2012年1月にスタンダードアンドプアーズよりAA+の格付けを付与されましたが、フィッチおよびムーディーズ・インベスターズ・サービスからの格付けはAAA/Aaaを維持しています。

一方、国際資本市場連合(ICMA)の会長でもあるレネ・カーセンティを新理事長に任命したことで

IFFImは歴史的な転換を遂げました(最終ページの関連記事をご覧ください)。2012年2月、レネ・カーセンティは新理事長に就任しました。この就任を持って、IFFImの初代理事長としてドナーからの63億米ドルの拠出誓約の確保と資本市場における36億米ドルの調達に貢献したアラン・ギレスピーを引き継ぎました。

同前理事長が在任中に調達した上記額には、日本における2008年の個人投資家向け初回起債が含まれています。2012年5月『ユーロウィーク』誌にて、同債券は過去5年間で最も影響力のあった取引の上位25位内にランク付けされました。同債券は、日本で売り出された社会貢献型債券の取引のさきがけともなるものでした。

ギレスピー前理事長は在任の最後の年に、世界銀行との2011年10月の財務管理契約の更新を主導しました。同年、医療コンサルティング会社HLSPにより、IFFImに関する独立評価報告が発行されました。

2011年7月に完成した報告にて、IFFImは「極めて優れた開発投資リターン」を提供し、「国際保健のニッチプレーヤーから主要プレーヤーへと成長を遂げたGAVI」に貢献したとの結論が発表されています。同報告は、IFFImの支援により、GAVIが210万人ものさらなる命を救うことに成功しただけでなく、1ドル当たりの費用対効果を3倍以上に高めたことを挙げ、IFFImを低コストで効率的なモデルと評価しています。

IFFImとは?

予防接種のための国際金融ファシリティ (IFFIm) は、予防接種のための資金の入手可能性と予測可能性を加速的に高めることを目的として、2006年に発足しました。IFFImはドナー政府の誓約により、機関投資家および個人投資家に販売される「ワクチン債」の発行を促進します。調達資金はGAVIアライアンスのワクチンプログラムの援助に使用されず、GAVIアライアンスは発展途上国において予防接種へのアクセスを拡大することで、子ども達の命を救い、人々の健康を守るために活動する官民パートナーシップです。IFFImの財務マネージャーは世界銀行が務めています。IFFImのドナー国は英国、フランス、イタリア、スペイン、オーストラリア、オランダ、スウェーデン、ノルウェーおよび南アフリカ共和国です。ブラジルはIFFImの10カ国目のドナー国になることを確約しました。



GAVIアライアンスは、所得の低い国々において予防接種へのアクセスを拡大することで、子ども達の命を救い、人々の健康を守ることを使

命とする官民パートナーシップです。GAVIアライアンスには、発展途上国・ドナー諸国の政府、世界保健機関(WHO)、ユニセフ、世界銀行、途上国および先進国のワクチン産業界、研究・技術機関、市民社会団体、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、そして民間機関等が参加しています。2000年に発足して以来、GAVIは550万人以上の死を未然に防ぎ、3.26億人の子供の健康を新ワクチンあるいは十分活用されていないワクチンの接種により守ってきました。

www.gavialliance.org



World Bank Group

世界銀行は、加盟国188カ国によって所有される国際機関です。その目的は加盟国が国内経済において公平かつ持続可能な経済成長を成し遂げ、経済発展および環境の持続可能性に関する地域的・全世界的問題を効果的に解決する手立てを見出すことです。世界銀行はIFFImの財務マネージャーでもあり、世界銀行はIFFImの代理人として、慎重な方針と基準に基づいてIFFImの財務管理を行っています。その業務内容は、IFFImの資金調達戦略および資本市場におけるその実施、格付け機関および投資家への対応、ヘッジ取引、投資管理などです。世界銀行はまた、IFFImのドナーの誓約や支払いに関わる調整管理に加え、GAVIアライアンスを通じたIFFImの予防接種ならびに保健プログラムへの出資も管理しています。

www.worldbank.org

詳しい情報に関する
お問い合わせ先:

Jonathan Stern
GAVIアライアンス
電話番号: +1 202 478 1055
jsstern@gavialliance.org

Derek Warren
世界銀行
電話番号: +44 20 7592 8402
finance@iff-immunisation.org

北島千佳
電話番号: +41 22 909 6564
ckitajima@gavialliance.org

IFFIm、子供を肺炎から守るグローバルで革新的な取り組みを支援

アフリカの角から西アフリカ沿岸まで赤道周辺の広範な地域にて、IFFImの資金援助により、5歳未満の子供の命を脅かす脅威を減らす取り組みが行われています。

ガーナ、コンゴ、ケニア、エチオピアを含むこの地域に加え、紅海を渡ったイエメンやラテンアメリカにおいても、GAVIアライアンスは小児肺炎の原因となる肺炎球菌感染症に対する予防接種を世界で最も所得の低い国々の子ども達を対象として実施するキャンペーンを拡大しました。

子ども達を守るために、IFFImは2011年、GAVIの肺炎球菌予防ワクチンプログラムに4158万米ドルを提供しました。これにより300万人以上の子供達の予防接種が可能となります。現在合計で3大陸17カ国が、GAVIの肺炎球菌予防ワクチン供給の援助を受けています。GAVIは700万人以上の死を防ぐため、2030年までにその数を40カ国に増やすことを目標としています。

この取り組みでIFFImと同じく革新的なプログラムとして共に主要な役割を果たしているのが、肺炎球菌ワクチンの事前買取制度 (Advance Market Commitment: AMC) です。このプログラムは、ドナーの資金拠出の誓約により、ワクチン製造会社に発展途上国向けにワクチン製造規模を拡大するインセンティブを与えます。同時に発展途上国は、富裕国に比べて大幅に引き下げられたコストで接種プログラムを計画できるというものです。

この提携の元、IFFIm、AMC、およびGAVIアライアンスは、ワクチンによって予防できる子ども達の死の最大要因である肺炎球菌の撲滅に貢献しています。

エチオピアの遠隔地、デレール・エビジャ村のヘルスセンターの待合室で出会ったキダー・ムディ君(1歳)と母親のアレムネシュ・ゲレファさんのストーリーをご紹介します。今は元気な笑顔のキダー君ですが、3カ月前、肺炎に感染した時は死に直面する危機を経験しました。

ゲレファさんは「死んでしまうかと思いました」と思い返します。この日、キダー君は肺炎球菌のワクチン接種を受けるため来院していました。デレール・エビジャ村でこのワクチンが入手可能になってからまだ2週間しか経っていません。2011年の秋に供給が開始されたこのワクチンの予防接種はキダー君を思うゲレファさんが待ちわびた機会です。

保健普及員 (Health Extension Worker: HEW) のベライネシュ・アレルサさんは、次のように述べています。「この地域では多くの子供が肺炎に感染します。結果として、母親達は通院するため仕事の中断を強いられます。ワクチンの導入により、子供達の死を防ぐことができるようになる上、母親達は家と病院の間の行き来に時間を取られなくなります」

新たなワクチンの導入には多大な準備が必要です。例えば隣国のケニアでは、肺炎球菌ワクチンの最初の配送分の到着後、数千人もの保健員が全国各地で1日研修を受け始めました。

ケニア全国におけるワクチンの初回投与開始に携わったユニス・ワンジク・ンジャブさんは、次のように述べています。「ランガタ県ヘルスセンターで疾患の治療を受ける子どもの半数近くが肺炎を患っている時もあります。肺炎球菌ワクチンによってケニアの保健・衛生事情は大きく変わるでしょう。

ケニア北東のダダーブ難民キャンプでは、ソマリアからの難民の子供達もワクチンの接種を受けています。43万人の人口を抱えるダダーブは、非公式ながらケニアで3番目に大きい町となっています。人口密度の高さ、衛生水準の低さ、および公衆衛生サービスへの圧迫により、疾病が急速に広がるリスクが常に存在します。

ダダーブの3つの難民キャンプのうち1つに最近受け入れられたホッビア・アデンさんと彼女の6人の子供達を紹介しましょう。彼女と子供達は21日も歩き続けてキャンプに到着しました。登録プロセスの際に、一家は医療検査を経て、子供達はポリオ、麻疹およびジフテリアを予防する混合ワクチンの接種を受けました。生後9カ月のモハメッドには、1歳未満の乳児用の肺炎球菌ワクチンが投与されました。



GAVI/Jonathan Stern/2012

4ページ目に続く

「ソマリアには病院がないので、私の子ども達はワクチン予防接種を受けたことがありませんでした。私は子どもの時予防接種を受けたので、その重要性は理解しています」とホウビアさんは語ります。

紅海を隔てたイエメンでは、子どもの死亡者数の内、約20%が肺炎に起因しています。しかし、2011年に肺炎球菌のワクチンの提供が開始されてから、イエメンではその数を減らすための取り組みが進められています。

ワクチンの提供開始をこの目で確認することは「小児科医そして[保健省の元]大臣としての私の最大の夢です」と、2008年から2011年までGAVIアライアンス理事会メンバーを務めたアブドゥルカリム・ラサエ博士は語ります。「イエメンの乳幼児死亡率を減少させる上で、大きな効果を期待しています」

保健省が国内の携帯電話会社と交渉し、ワクチンの提供開始に先立って、ショートメッセージサービス(SMS)によりワクチンの案内メッセージを携帯電話の契約者に送信する合意を締結したことから、イエメンの高い期待感が伝わります。

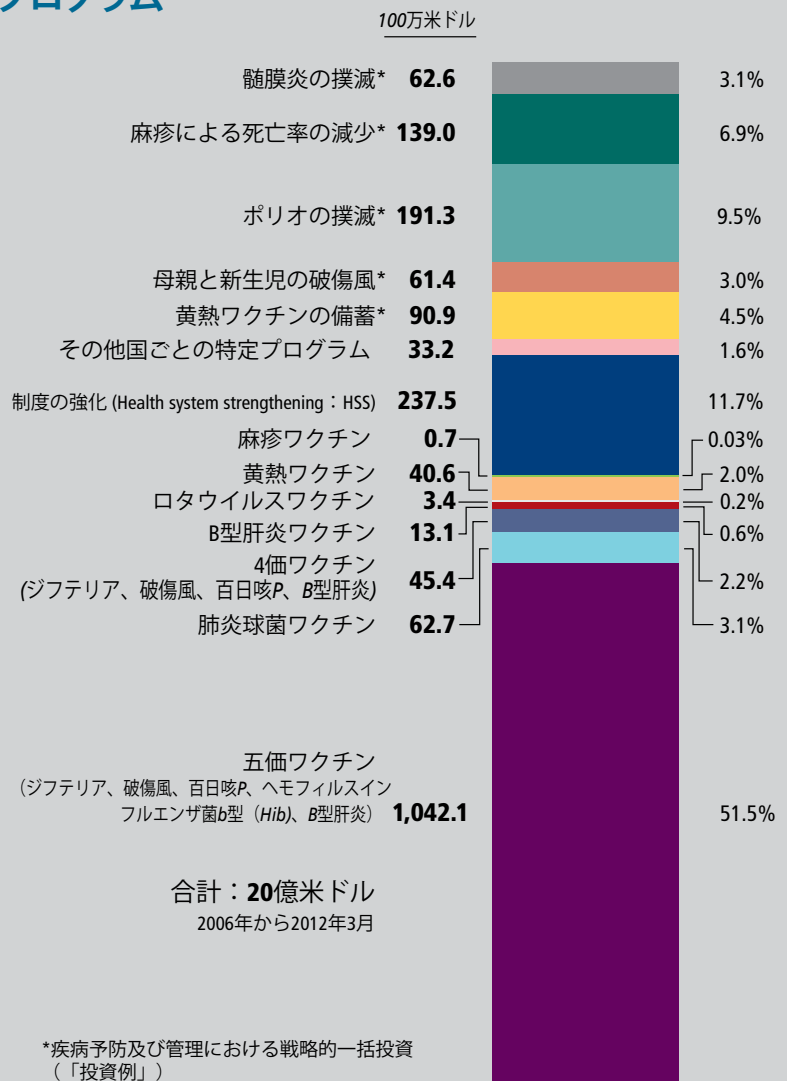
「狙いは、乳児のワクチン接種がいかに必要か人々にしっかり理解してもらうことでした」と、プライマリ・ヘルスケア担当副大臣のマジド・アル・ジョナイド博士は説明します。「ですから、すべての医療施設にもれなくワクチンを届けようと懸命でした。せっかく赤ちゃんを連れてきたのに、肺炎球菌ワクチンがその施設にないといった事態を防ぎたかったのです」

「ワクチンは疾患を予防するためのものです」と、ワクチンの意義を強調します。「ワクチンに1ドル投資するたび、医療費やその他の関連費が20米ドル節約されます。これは子供や家族だけでなく、コミュニティや国家全体にとっても有益なことです」

IFFImの資金援助を受けているGAVIプログラム

2012年3月31日時点で、28億ドル分のプログラムがIFFImにより承認されています(発足時からの累計)。その金額のうち、20億米ドル以上はすでにGAVIワクチン購入の援助のために拠出済みです。GAVIに市場へのアクセスが無かったなら、上記金額の半分ほどの資金になっていたでしょう。IFFImのドナー誓約のもと市場へのアクセスがあったため、その倍額の20億米ドルを得ることができたのです。

IFFImはGAVIの迅速で安全なワクチン提供に寄与してきました。例えば、IFFImは五価ワクチン(Pentavalent)の初期投与量を確保するための国連児童基金(UNICEF)への支払額の90%以上を出資しました。五価ワクチンは、一回の投与で5つの感染性疾患(ジフテリア、破傷風、百日咳、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型(Hib)、B型肝炎)を予防するワクチンです。IFFImにより長期的かつ安定的な資金提供を得ることなくして、GAVIはこのワクチンを入手するための前金を支払うことはできなかったでしょう。1.77億米ドルの初回現金払い以降、IFFImは五価ワクチンやその他の命を救うワクチンの購入に出資してきました。



IFFIm、GAVIへの予測可能で柔軟な資金提供能力を証明、新たなドナーを募る



GAVI/Aksel Jakobsen/2012

IFFImがGAVIに提供してきた多額の資金は、2015年にIFFImの返済期が始まると共に減少し始める予定です。

これは、IFFImが意図に沿って機能していることを意味します。長期的なドナー誓約は、資本市場を通じた短期的資金調達を支えてきました。IFFImはGAVIのプログラムへの28億米ドルの拠出を承認してきました。これは現在までのIFFImへのドナーからの収入の3倍を超える額です。

一方で、GAVIは自らの長期的な資金調達戦略を検討中です。GAVIの目標はフレキシブルな資金調達と、ワクチン市場を形成することのできる多様な資本構造を築くことです。そしてIFFImはGAVIのこれらの目標の達成を援助するのに適した立場にあります。GAVI事務局は、GAVIの資本構造にIFFImが含まれるあり方を長期的な姿として提案しています。

その結果、IFFImは新たな誓約を確保し、既存市場と新興市場両方の新規ドナーを開拓するための手段を講じています。IFFImのドナーも、2012年4月にワシントンD.C.で開催されたワークショップと、同年6月に同じくワシントンD.C.で召集されたドナー会議でこのテーマについて議論しています。

GAVIアライアンスのダグフィン・ホイブローテン理事長(左上写真)は、GAVIのドナーにとってIFFImが魅力的な理由として、IFFImが援助協調にもたらす好影響も挙げています。また、「IFFImは、根本的なニーズに対応し、かつドナーの目標に貢献するため、GAVIの長期的資金調達戦略において重要な価値をもたらしています。IFFImは効率的な援助と

良いガバナンスを実現する手段としての働きを有します」とも述べています。

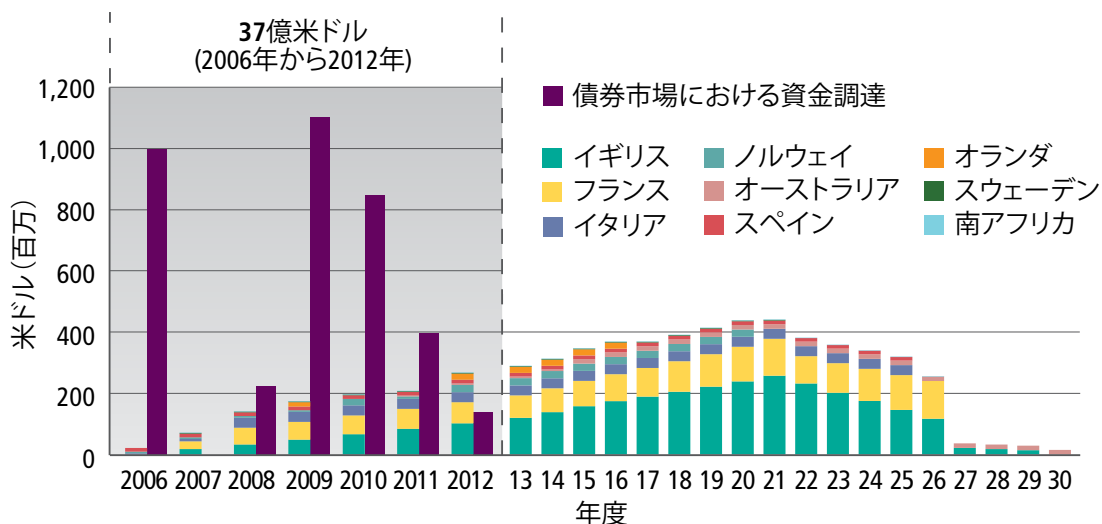
IFFImは、長期的で法的拘束力のある、そのために確実に入手できる資金を提供します。従って、ワクチン業界が製造規模の拡大と製造能力の強化に踏み切ることのできる信頼感が生まれるのです。このパターンは五価ワクチンの事例からも明らかです。

「これらの確約は、ワクチン業界と、ワクチンの提供を受ける国々の双方にとって、GAVIによる支援の確実性についての力強いメッセージとなります」とセス・バークレーGAVIアライアンス事務局長は指摘します。「その上、IFFImはGAVIに予測可能性、可視性、および資金調達の柔軟性を提供します」

なぜならIFFImでは — 通常時間的な制約が伴う直接出資と異なり — プログラムで資金が必要となった時点と、ドナーからのGAVIへの拠出のタイミングをデカップリング(切り離す)ことが可能だからです。IFFImは直近の6年間にわたり、GAVIのプログラムのための資金調達額の41%増加に寄与し、また各国のプログラムにおける変化への素早い対応を可能にしてきました。

GAVIの革新的資金調達担当マネージングディレクター、デービッド・フェレイラは次のように述べています。「IFFImのパワーは、長期的でフレキシブルなこと、そしてその法的拘束力にあります。IFFImはドナーからの将来の支払いという拘束力のある約束を取り付け、投資家に自信を持って債券を購入してもらうフロントローディングを行い、時間的な制約を超えた資金の移動を実現します」

IFFImは長期的なドナー誓約に基づき債券を発行



アフリカの髄膜炎ベルト：IFFImの特別投資の対象

西のセネガル、東のエチオピア、そしてその間をつなぐ25カ国から成る、アフリカのいわゆる「髄膜炎ベルト」の住民は、毎年A型髄膜炎の流行により、死、障害、そして恐怖にさらされます。

この地域の近年で最大の流行の際には、25万人が感染し、そのうち2.5万人は死亡し、5万人は失聴や知的障害などの障害を負いました。

そこでGAVIを含むコンソーシアムのパートナー達が「髄膜炎ワクチンプロジェクト (Meningitis Vaccine Project)」という総称のもと、髄膜炎ベルトのために特別に開発したのが、「MenAfriVac」という名のIFFImが支援するワクチンです。MenAfriVacは接種1回分のコストが0.5米ドル未満で、2010年から2015年の間に最大15万人の命を救うと予想されています。

2010年12月に、ブルキナファソ、マリ、およびニジェールで導入されてから、初期段階の結果は非常に良く、直近では2011年12月にナイジェリア、チャドおよびカメルーンで導入されています。例えば2011年、流行期が終わるまでにブルキナファソにてA型髄膜炎にかかった人の数は合計4人のみでした。全員がワクチンを未接種で、うち3人は医療ケアのためトーゴから入国した人でした。UNICEF、GAVIとの提携のもと、PATHとWHOがワクチン開発のため共同で進めている「髄膜炎ワクチンプロジェクト」の統計値によれば、現時点で5500万人近くの人が6カ国でワクチンの接種を受けています。

2011年にIFFImは「特別投資案件」として髄膜炎ワクチンの購入費149万米ドルをGAVIに提供し、当プロジェクトへのIFFImの投資額は合計で5955万米ドルになりました。

IFFImがこのような一括投資を行った例は他にもあります。例えば、ポリオ撲滅の取り組みへのGAVIの参加のために2億米ドル近くを提供しました。また、麻疹による死亡率を下げるために1.39億米ドルを投資しました。また、備蓄用黄熱ワクチンの購入や、母親および新生児用の破傷風ワクチンに投資しています。

「髄膜炎シーズンの前は、皆が常に懸念と恐れを抱えています。何が起こるのか誰にもわかりませんから」と、ナイジェリアの国立プライマリ・ヘルスケア開発エージェンシー (National Primary Health Care Development Agency) の疾病管理 促進部 (Accelerated Disease Control) 部長のモハメド・サニ・アダム氏は語ります。2009年にはナイジェリアで5万人近くが発症し、そのうち2000人が亡くなっています。「この新ワクチンは流行における全症例の90%を占める、最も多く見られるタイプの髄膜炎から国民を守る絶好の機会です。MenAfriVacはナイジェリアにとって実に重要なのです」

アダム氏によれば、ナイジェリア政府は冷蔵室を新設し、国の保管施設からターゲット地域にワクチンと注射用器材を輸送するために30トントラックを使用しました。全国36州のうち5州を含む対象地域では、厳しい地形のためにバイクや自転車



での移動が必要なこともありました。その結果、2週間以内に1570万人にワクチン接種が実施されました。

髄膜炎ワクチンプロジェクトのディレクター、マーク・ラフォース氏は次のように述べています。「すべての取り組みで期待通りの効果を得ることができれば、さまざまな感染症を根絶することができます。完全に消し去ることができるのです」

GAVIは髄膜炎ベルトからのA型髄膜炎撲滅を援助するため、3.704億米ドルの予算を計上しました。2011～2015年のプログラムにおいて、GAVIはこの地域の全25カ国における予防接種の支援を計画しています。アフリカにおけるA型髄膜炎の撲滅のための、合計5.71億米ドルの予算からGAVIの拠出分を差し引いた残りの大半は、アフリカ諸国からの提供分となります。

髄膜炎は、脳と脊髄を覆う軟膜の感染症が、ウイルスまたは細菌感染により引き起こされる病気です。最も高い感染リスクにさらされるのが、乳児、子どもおよび若年層です。

「息子は注射針を怖がっていますが、すぐに大したことではないと理解しますよ」と、流行中に息子のアフマド君を予防接種のために連れて来たチャド人のお父さんは言います。「2週間前に妹が亡くなりました。私の息子が、妹のように苦しむことがないようにと願うばかりです」



UNICEF/Prozai/2008



GAVI/Eva Lotta Jansson/2012

「2週間前に妹が亡くなりました。私の息子が、妹のように苦しむことがないようにと願うばかりです」

— チャドで髄膜炎のワクチン接種を受けた男の子の父親

IFFIm新理事長と国際的開発のつながりは幼少期より始まる

IFFImのユニークな特徴の一つは、国際開発援助の手段として資本市場を活用することです。IFFImの新理事長レネ・カーセンティは、これまでのキャリアのほとんどを一つの事に注ぎ込んできました。

レネのインスピレーションは、フランス空軍の将校で、連合国軍に属してヨーロッパの平和と統一のためにイタリアとフランスで戦い、その後アルジェリアに移住した父親でした。アルジェリアでの生活を通し、レネは発展途上国で暮らす人々が直面するさまざまな困難と、戦争、不十分な医療、貧困が経済発展に及ぼす影響について理解するようになりました。

レネの成長過程において、早くからIFFImとのつながりがいくつか見られます(カーセンティ家は1962年にフランスの沿岸都市ニースに移りました)。レネはリヨン大学で化学工学の修士号を取得しました。その学歴から、国軍に兵役中にレネは医薬研究チームに配属されました。結果として、レネは博士論文(ソルボンヌ大学院経済博士課程修了、カリフォルニア州立大学バークレー校大学院で研究)の主題に、医薬研究における市場の効率性を選びました。これは今日GAVIの活動において重要なトピックになっています。

学者として活動していたレネは、1970年代の始めにユニークな経験に恵まれることになりました。そのきっかけは、フランスの大規模な公共投資グループ、Groupe Caisse de Dépôts (CDC)で化学・石油・医薬業界の企業を分析する職に任命されたことです。そのタイミングは完璧でした。1973年の石油危機が進行するなか就任した彼は、26歳で効率的な開発資金調達ツールとして、フランス国内および海外の企業にCDCの一部の投資を当てる業務を担当しました。

「私にとっては、さまざまな企業が財務戦略を適応させる様子を現場で見ることができた貴重な機会でした。」とレネは回想します。

資本市場と開発資金調達の両分野における経験のユニークな組み合わせにより、レネは世界銀行のヤング・プロフェッショナル・プログラム (Young Professional Program: YPP) のメンバーとして採用されました。家族と共にワシントンD.C.に移ったレネは世界銀行グループで11年間、さまざまな地域(西アフリカ、極東)および職務(世界銀行財務局、国際金融公社(IFC))を経験しました。

1981年、スイスフランおよびドイツマルク建ての低金利債券を大量に保持していたIBMの代理として、ソロモンブラザーズは世界最初の通貨スワップを手配しました。世界銀行の財務局にいたレネは、この取引の形成に関わりました。世界銀行は、米国市場でドルを借り、IBMへのドル建て支払債務をスイスフラン・ドイツマルク建ての債務と交換することに合意しました。

このスワップはデリバティブ市場の形成を誘発する一因となりました。その後間もなくレネは、世界銀行の開発金融活動における効率的な資金調達のため、革新的なツールを生み出すことを目的とし、新たな金融製品およびデリバティブ製品のイノベーションデザインに特化した世界銀行のタスクフォースに任命されました。当時彼の同僚でIFCに配属されていたアントワン・ファン・アフトマールが、発展途上国におけるミューチュアルファンドの投資を推進するため、「新興市場(emerging markets)」という新語をつくったのもこの時期でした。

革新的資金調達の現場の中核で、レネは資本市場を活用して開発のための資金調達を行いました。どこかで聞いたことのある話ですよ?

先にIFFImの2代目理事長就任につながるその方向性を変えることなく経験を重ね続けたレネは、その後、IFCの財務部長に就任しました。IFFImと同様、国際金融公社も発展途上国における民間セクターの企業を援助するため、資本市場を活用する機関です。1991年には、元ソビエト圏の自由市場経済への転換を促進するために発足した欧州復興開発銀行(EBRD)で、同様の役職に就きました。



Martin Black Photography 2012

1995年には欧州投資銀行(EIB)のCFO(最高財務責任者)に就任しました。

IFFImは2005年の当時初期形成の段階にありました。その頃、欧州投資銀行に在任していたレネはIFFImのことを知りました。その頃からレネはIFFImの熱心なファンになっていました。「誓約を実際の支払いから切り離すという概念は私の関心を強く捉えました。でも、それが決して容易いことではないこともわかっていました」と彼は語ります。

IFFImの成功の鍵は、最上のクオリティを有する誓約および資本を求め、かつ優れた運用に支えられた、質の高い資産を求めることだとレネは主張しました。その見込みは的中し、IFFImは新ワクチンの導入支援における独自の柔軟性と予測可能性をドナーに提供することに成功し、また世界屈指の財務戦略により、低コストの資金調達と、流動資産運用における保有利益を実現しました。

レネは次のように述べています。「IFFImは社会的責任に根差した活動への資金提供という興味深い役割を資本市場に与えます。資本市場は批判の対象となっています。しかし、社会貢献活動に資本市場を効率的に活用することの有益性が見失われていると思います。GAVIファミリーの一員として、IFFImには遂行すべき重要な役割があります」